形成外科

＜プログラムの名称＞
形成外科臨床研修プログラム（2～3 ヶ月間）

【1】研修プログラムの目標と特徴

GIO ： 形成外科研修医は医療チームの一員として医療に参画し、先天性あるいは後天性の主に身体外表の醜状と機能障害を外科的手段により治療し、個人を社会に適合させるという形成外科の基本的な知識、技能を習得する。

SBO ： **１．一般的診察能力**

１）病歴：形成外科の患者の特異性を十分に認識した上で、先天異常では母親の妊娠歴、疾患、服薬、遺伝的疾患、環境要因について、外傷では受傷機転の詳細について、腫瘍では発症から受診までの経過について聴取できる。

２）診察：一般的診察、病変部の診察を正確かつ要領よく行える。病変部の情報をカラー写真、Ｘ線、ＣＴ，ＭＲＩ等を適切に選択して記録することを理解する。

３）診断：形成外科診察と検査結果に基づいてくだされた診断とその治療法の概要を理解できる。患者を全人的にとらえ、患者およびその家族との良好な人間関係を確立することができる。

２．形成外科的診療能力

１）形成外科手術に必要な器具
メス、フック、剪刀、鑷子、鉗子、吸引器、電気メス、縫合材料、採皮器具について、その特徴、目的、使用法を理解し、使用することができる。

２）形成外科に必要な基本手術手技
次にあげる各手技について概念、方法、適応などを理解する。a)皮膚表面形成術、b)縫縮術、c)Ｚ形成術、d)W形成術、e)分割切除術、f)皮膚伸展法、g)組織移植術（植皮術、採皮法、脂肪移植、粘膜移植、筋肉・筋膜移植、神経移植、植毛、骨・軟骨移植）、h)マイクロサージャリー

３．疾患別診療能力

１）形成外科的な皮膚切開・縫合法の要点を理解し、指導医の下に実施できる。
２）顔面外傷の診断に必要な検査法と治療の要点を理解し、説明できる。
３）熱傷の診断と治療を理解し、初期治療に参加できる。
４）代表的皮膚・軟部組織腫瘍の診断と治療法を説明できる。
５）代表的外表先天異常についての informed consent の要点を理解し、基本的説明ができる。
６）手の外科に必要な一般的知識を身につけ、基礎的な治療を実施できる。
７）創の状態に応じた創処置を理解し、抜糸などその基本的な手技を実施できる。

【2】形成外科的な疾患と治療法

下記の疾患や病態について、その診断と治療に参加する。

1）熱傷	10）顎骨変形症
2）顔面外傷（含顔面骨骨折）	11）組織欠損に対する形成外科的再建法（植皮術、皮弁法）
3）皮膚良性腫瘍	
4）皮膚悪性腫瘍	12）手の外科（手の先天異常、切断指等）
5）褥瘡	
6）難治性皮膚潰瘍	13）その他の顔面先天異常（小耳症、眼瞼下垂症等）
7）肥厚性瘢痕・ケロイド	

8)頭蓋骨縫合早期癒合症	14)その他の外表変形(漏斗胸等)
9)唇裂・口蓋裂	

【3】週間予定

9:00　10:00　11:00　12:00　13:00　14:00　15:00　16:00　17:00

月	←　外　来　→　←　手　術　→←回　診→
火	←　外　来　→　←　手　術　→←回　診→
水	←　外　来　→　←手　術→←抄読会→←回診→
木	←　回　診　→←手　術→　←　手術　→←カンファランス→
金	←　外　来　→　←　手　術　→←回　診→

(上記スケジュールはあくまで目安であり、変更となる場合がある。)

【4】方略(Learning Strategies)

指導医のもと、外来では診察に付き添い診断・治療方針決定の考え方を学び、治療方針の説明、術後経過の説明を通して患者との良好な人間関係構築の手法を習得する。

病棟では指導医とともに数名の入院患者を受け持ち、診察を行い必要な術前検査の計画と実施、手術計画の立案、術前検討会でのプレゼンテーション、患者とその家族への説明、術者あるいは助手としての手術への参加、術後の病状説明、管理、形成外科的創処置、退院後の生活指導等に携わり形成外科的疾患の診断、治療の流れを経験、理解する。

さらに指導医とともに救急呼び出しに応じ、顔面外傷、熱傷等の救急医療を学ぶ。

【5】教育評価(Educational Evaluation)

研修終了時に、EPOCを用いて指導医と研修医で目標の到達状況等について評価を行う。

【6】指導責任者および指導医・上級医

指導責任者:本庄　省五

指導医 上級医名	役職	卒業年	臨床研修指導医	臨床研修 指導医
本庄　省五 (ほんじょうしょうご)	副院長兼形成外科 長兼感染管理室長	1980 年	日本形成外科学会形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医 日本創傷外科学会専門医 日本褥瘡学会認定医 岩手医科大学客員准教授、医学博士	
池村　巧 (いけむら　こう)	臨時医師	2013 年		

【7】2015 年実績

入院手術総件数　168 件(全身麻酔　81　腰麻・伝達麻酔　0　局所麻酔・その他　87)

外来手術総件数 476 件(全身麻酔　0　腰麻・伝達麻酔 0　局所麻酔・その他　476)

2016 年

入院手術総件数　87 件(全身麻酔　44　腰麻・伝達麻酔　0　局所麻酔・その他 43)

外来手術総件数 338 件(全身麻酔　0　腰麻・伝達麻酔 0　局所麻酔・その他　338)

【8】後期研修について

当科では、３年次以上の後期研修が可能。
取得可能な専門医：形成外科専門医（日本形成外科学会）
上記取得後２年以降：皮膚腫瘍外科治療専門医（日本形成外科学会）
創傷外科専門医（日本創傷外科学会）

《形成外科専門医取得までの道のり》

形成外科学会に入会後かつ2年間の初期研修終了後

↓

4年間当院（認定施設）で研修

① 10例の術者症例の詳細
② 60例以上の術者・助手の一覧
③ 論文一編

↓

専門医試験（筆記試験・高等試問）

【9】その他

《勤務時間》
原則として朝８時 30 分から 17 時 15 分までであるが、手術が長引いた場合、急患等の場合この限りではない。

《研修する上での留意点》
形成外科の患者は表出している変形はもとより、それに伴う精神的苦悩が大きいことが多いので、患者に対する言動・態度には十分な配慮が必要である。

【改訂改正履歴】
2015.4　改訂　本庄省五